

# 待合室を変えようプロジェクト

～待ち時間も貴重な医療資源～

# 待合室とはどんな場所？

何らかの問題を持った人が

いやおうなしに一定の時間

とどまらざるを得ないところ

# 何が問題なのでしょう？

- まず患者さんの人数です。医療機関の受診者数は、現在一日当たり約750万人ですが、将来は1000万人に及ぶと予想されています。
- つぎに質の問題です。かなり改善されたとはいえ、大多数の待合室はけっして心地よい空間ではありません。病気がうつりそうだし・・・
- 機能的にも問題です。現在はただ耐えて待つだけの場になっています。もっと潜在的価値を生かせる使い道はないものでしょうか？

# でも、少し見方を変えてみませんか？

- 全国に開業医の待合室が10万、病院の総合待合室が9千、各科待合室がその10倍以上、合わせて**約20万もの使える場がすでに存在**しています！これはすごいことなのでは？
- 患者数が1000万人ということは、**視聴率に換算すると約10%**ということです。しかも毎日。
- こうした事実を評価しなければ勿体ない!!!

# みんなで考えて、世の中に アピールしてみませんか？

- 問題があるのだったら、まずそれを変えてみましょう
- 最終目標は、「待合室を変えよう」が持続した社会運動となることです
- そのために、まず“とっかかり”としての公開シンポジウムを開催したいと思います

**現在検討中のテーマは・・・**

# アメニティ空間としての待合室

- ①このテーマは建築関係の方に、  
お願いしなければなりません。
- ②心地よさを感じさせる建築空間とは、  
いったいどのようなものなのでしょう？
- ③それを待合室のイノベーションに応用！
- ④最終的には待合室モデルの提案？

# PRの場としての待合室

- ①シンポジストは、広告業界の現役に！
- ②待合室というややデリケートな場で  
なにをPRすべきか？
- ③世間をアツ！と言わせるような、斬新な  
アイデアを形にできないか？
- ④国を顧客にして、政策アピールの場へ！



# 情報提供の場としての待合室

- ①情報の質的な信頼性を担保するうえで、  
参考としたいのは英国のNHS Choices
- ②ITになじまない人はどうしたら良いか？
- ③受付の女性が優しく教えてくれる！  
医療コンシェルジュのすすめ
- ④ハード面に関しては、可能性を提示して、  
システム開発はプロに任せたほうが...

# コミュニティの場としての待合室

- ①オバマ大統領は、シカゴでコミュニティ・オーガナイザーをしていた！その経験が国造りに役立ったとのこと。
- ②社会とのかかわりの中で、待合室にいかなる機能を付与できるか？
- ③待合室は病人だけが利用する場ではない。  
アフタークリニック的な利用法はどうか？
- ④迷子の犬さがしは、近所の待合室へ！

# 学びの場としての待合室

- ①まず待合室にディスプレイを！
- ②患者さんは、立て板に水のように話す専門家よりも、慣れ親しんだ院長やスタッフの話に耳を傾ける(はずである)
- ③院長の説明を、**映画のように撮る！**
- ④童話の読み聞かせも、子どもの情緒教育になる(はずである^^)

# ニュースソースとしての待合室

- ①待合室そのものが、ニュースソースとなるのではないか？
- ②ユニークな取り組みの待合室の紹介をしたい！
- ③取材すること自体が、待合室を活性化させることは間違いない！
- ④ここはメディアの独壇場です！

# 連携の場としての待合室

- ①これからの医療は、多職種連携が重要なキーワードとなる
- ②より良い連携構築に、連携アドバイザー・連携コーディネーターが必要になる
- ③連携先を表示したリンクボードは、医療機関の意志表明カードでもある
- ④医療・介護・福祉の見える化に寄与する

# 終末期意思カードと待合室

- ①お年寄り、他人とのコミュニケーションをとることがとても下手です
- ②一人で最期のことをくよくよ悩んでいます
- ③このカードが、お年寄り同士の会話のきっかけを作ってくれるのではないか？
- ④自分の問題として考える文化を作る

# 待合室を変えようシンポジウム

- 日時：平成25年3月24日(日)

- 場所：本郷三丁目

- テーマ：

待合室も貴重な医療資源！

待合室に新しい機能を付け加えよう！

待合室の価値になぜ気づかないのか？

# さいごに

- 待合室は、ヘルスプロモーション・コミュニティである！